

# 兵庫区から日本代表へ「自分の最高の登りを」

スポーツクライミングとは、手や足を引っかけるための突起（ホールド）がついた人工の壁を登る競技で、世界的に人気のスポーツだ。第18回近畿高等学校スポーツクライミング女子の部で優勝、第68回国民体育大会女子の部でリード競技7位、ボルダリング8位となった神戸学院大学附属高校(兵庫区)1年生の大植麻亜耶さん取材しました。

ースポーツクライミングを始めの理由は何か。

モンベル六甲店にキャンプ用品を見にいったときに偶然、体験クライミングのポスターが貼ってあったのを見てやってみたことがきっかけで、小学5年生の時に強化

合宿へ参加したことで本格的になりました。

ー練習で嬉しかったこと、辛かったことは何か。

嬉しかったことは今まで達成できなかった課題を完登したこと。辛かったことはリードで難し

いルートを何回やっても出来なかったことです。

ー試合の時、どんな気持ちで臨みますか。

基本は優勝する気持ちで臨みます。あとは、自分の最高の登りをすることです。

ー今後の目標を教えてください。

ユース(小学6年生以下)のリードの大会で良い成績を残して、ユースの日本代表に選ばれるように頑張りたいと思います。

記事・写真 森本夏実



笑顔でインタビューに応える大植さん(右)

神戸学院大附属高1年 大植麻亜耶さん



男子選手らに交じり、日タトレニングに励む

## ■リード (lead)

クライミング本来の登り方。結んだロープが下につけられている状態で、プロテクション(※)にロープを通しながら登る。墜落すると最後にセットしたプロテクションまでの距離の2倍落ちることになる(実際はロープの伸び、流れによってもっと長くなる)。

※プロテクション…安全をプロテクト(守る)するためのもの。ボルト、ピトンのように壁の中に残置されているもの(フィクストプロテクション)に対して、クラックなどで使う回収可能なものを「ナチュラルプロテクション」と呼んでいる

## ■ボルダリング (bouldering)

ボルダー(大きな石ころ)を登ること。壁の取付などでロープをつけずにトラバース(横へ移動すること)、あるいは安全な高さまで登ることも含む。

# ロリータで笑顔を

## 兵庫高校オシャレ生徒会長の片山倭瑞実さん

現在、兵庫高校で生徒会長を務める片山倭瑞実(いずみ)さん。そんな彼女の趣味はフリルやレースを多用しお姫さまのようになれる洋服、ロリータを着ることだ。イベントのときはロリータファッションで高校に登校し、周りの生徒を笑顔にしている。彼女にロリータの魅力などを語ってもらった。

ーなぜロリータを始めたのですか？

もともと私は地味な服ばかり着ていたんですが、中学生のころ、買い物をしてた時にとってもかわいい服を見つけたんです。そして、その服を着たことがきっかけで、かわいいファッションに目覚め、ロリータを着るようになりました。

ーロリータの魅力は何ですか？

ほかの服と違い、リボンやフリルがたくさんついていること。ま

たロリータを着ることで、所作や表情もロリータの世界に入りきってルンルンできることです。

ー片山さんはイベント時、ロリータファッションで登校していますが、大変なことはありませんか？

まず、準備が大変です。ハロウィンのときは、ホラーな雰囲気を出すため、顔全体を血のりなどで化粧したので、深夜0時に起きて登校の準備をしました。あと、出来るだけ人が少ない時間に登校し、他の生徒の登校の迷惑になら

ないことも心掛けています。開門の午前7時には、学校に必ず到着します。

ー大変なのにロリータ登校を行う理由は何か？

もともと私は周りの人を笑わせるのが好きで、ロリータを通して周りを楽しめたいと思ったからです。ロリータ登校で楽しそうなみんなを見ると幸せです。

ー最後に片山さんの夢を聞かせてください！

ファッションデザイナーになり、パリコレに出ることです。そして、「オートクチュール」という一点物の奇抜な服、そして、さまざまな人が着ることが出来る普段着も作りたいです。

記事・写真 寺内翔子



手と頭につけた小物は手作りだそう

インタビュー、撮影でお借りした場所 SOWAさん

片山さんおすすめのカフェSOWAさん。おしゃれで落ち着いた雰囲気、自家製のジュースがとてもおいしい。店員さんもやさしく、リラクセスできる空間。

住所	兵庫区荒田町1-20-1
店舗	湊川パークタウン2階Otonari
電話	080・8307・7465
定休日	火曜日
営業時間	11:20時(L.O19時)

## 編集後記



を通してまちの良さをたくさん発見できました。この新聞を通して、一人でも多くの人にまちの良さを見つけていただけたら嬉しいです。

■吉村推捺@市立神港高校  
記者クラブのことを聞いて、集まるんだったらどキドキした不安な気持ちと、ワクワクした楽しみな気持ちでいっぱいでした。記者クラブの人は優しい人ばかりで安心した気持ちで記事を書いたりすることが出来ました。普段は出来ない経験をさせていただいて、そこで学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。新聞作り

■岸部達朗@兵庫商業  
まるで何かのマスコミや新聞記者をしているような気分でした。それくらい記者さんや専門のカメラマンさんに本格的な指導をしていただいたからです。また会議はとても楽しく月に一度の集まりが楽しみでした。その中でも味コロッケのお兄さんから「義理人情」ということを学ばせていただきました。私は春から社会人なのでその言葉を忘れずに頑張りたいと思います。出来上がった新聞が少しでも多くの方に読まれたら嬉しいです。最後に優しく丁寧に指導いただいた各スタッフの方々に、ありがとうございます。

■吉田愛州加@兵庫高校  
今回私がこのような体験を通して感じたことは、実際に新聞を発行することや取材が非常に大変なことだということです。取材内容を決め事前にアゴを取り、記事にまとめる。この過程でお話を伺うことで、今まで知らなかった兵庫区のことを理解することが出来ました。今後の生活においてもこのような機会があると思うので、今回の体験を役立てたいと思います。

■森 美洋@兵庫高校  
今まであまり兵庫区と関わりが無く

に携わってくださった方々、この新聞を読んでくださっている皆様から感謝しています。ありがとうございます。

■児島由香@市立神港高校  
今回、この記者クラブの活動に参加して、本格的な新聞を作ったり、自分たちで取材を行ったり、普段できない貴重な経験をさせていただきました。初めは緊張しましたが、この活動に携わった方々のおかげで今までやってこれました。記事を考えたり、書くことの大変さ、難しさも学べ、自分自身の為にもなったように思います。本当にありがとうございます。

■武田麻奈加@市立神港高校  
最初、私たちは、先生にすすめられたという理由だけで記者クラブに参加していましたが、話が進み取材をしていくにつれて、とても楽しく、とてもやりがいのあるものだなと感じました。記者クラブでの活動の際、正直、たくさん失敗もしたし、上手くいかないことも沢山ありました。ですが、そんな時こそ、前向きな姿勢で活動をしなければいけないという事も学ばせてもらいました。今回の活動でわたしたちは前よりも少しいろんな面で成長

できたと思います。短い期間でしたが私たちの手助けをして下さった皆様、本当にありがとうございます。

■中村千尋@神戸学院大学附属高校  
最初に学校の先生から記者クラブのお話をいただいたときはとても嬉しかったです。私は今回自分自身も関心を抱いている芸能関係についての取材をさせていただけました。芸能関係の撮影の中心は何でも東京というイメージがありましたが、詳しく調べていると意外にも自分が住んでいる町でもたくさん撮影が行われていたことや撮影に携わっているスタッフの方々の苦労など今回の記者クラブの活動なしでは決して知ることが出来なかったことをプロの新聞記者の方のご指導を受けながら学ばせていただきました。今回の取材を通じてより神戸のことが好きになりました。記者クラブを支えて下さった皆様、本当にありがとうございます。

■森本夏実@神戸学院大学附属高校  
今回初めて本格的に取材をして記事を作りました。とても大変でしたが皆さんの支えがあって最後までやり遂げる事が出来ました。皆さんには感謝しています。本当にありがとうございます。